



宮城県支部 ～世界アルツハイマーデー記念講演会～ 「認知症当事者の思い&翼合唱団コンサート」を開催!!

今年は、いつもとは違う趣向を凝らして「若年性認知症」と診断された当事者たちの活動である、若年認知症のつどい「翼」を、多くの人に知っていただこうと、“宮城県支部にとって初

めての企画として大切な発信”をしました。

この企画に思いを込めて、世話人さんと共に取り組まれた丹野智文さんが、高揚感そのままに、寄稿してくださいました。

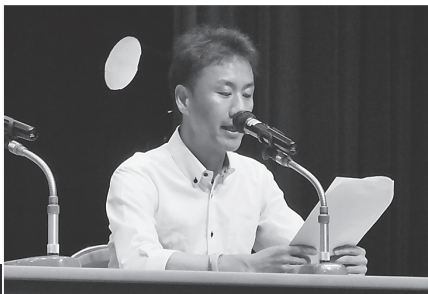
（編集委員 松本律子）

認知症の本人が登壇する記念講演会を！

毎年開催される世界アルツハイマーデー記念講演会を、「家族の会」の当事者数名の講演でできないかと、以前から考えていました。世話人の若生栄子さんにその思いを伝え、数ヵ月前から、どのようにしたらよいか相談していました。

登壇するといっても、当事者が家族と一緒にの姿は見ていましたが、当事者全員が一人ずつ、話ができないかと考えました。そして、私が司会をしたりするのではなく、私は客席で話を聞きたい、そう思うようになりました。

話をされる
丹野智文さん



家族の安達忠義さん
(左)と寺嶋芳子さん

世話人と一緒に原稿作り

当事者から聞き取りをして原稿を作り、話をしてもらおうと決め、「家族の会」の世話人が当事者の思いを何度も聞き取りをして、数ヵ月かけて実行しました。原稿は文字を大きくしたり、区切るところを考えたりしながら、工夫して作成しました。

家族には、原稿の内容は当日まで内緒にしながらの作業です。

それは、家族に知られるとやめてほしいとか、できないなどと言われるからです。

反対された家族もいましたが、「本人がやると言っているのだから、やらせましょう」と、若生さんが家族を説得してくれました。

緊張!!の登壇、一人ひとり一生懸命に！

最初は6人が登壇。みなさん、緊張していましたが、原稿を一生懸命に読む人、話しかけるように話す人、原稿よりも自分の気持ちを話し始める人など、様々です。

みなさん、一生懸命で本当に素晴らしい話でした。

そのあと、講演経験のある当事者が、初めての講演では10分ぐらいでしたが、今回は15分講演しました。話の仕方もうまくなっており、やはり、

国際会議報告書が完成！

4月に開催した国際会議の報告書が完成しました。本人のメッセージ、全体会、ワークショップなどが紹介されています。

【入手方法】

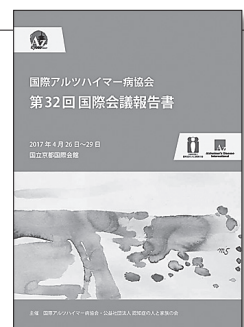
1. HPからダウンロード（無料）

<https://goo.gl/X9Z1K8>

2. 郵送（送料・手数料のみ負担）

本部事務局（FAX：075-811-8188、またはメール：office@alzheim.or.jp）へ、①会員番号、②氏名、③住所、④電話番号、「国際会議報告書希望」と書いてお申し込みください。

※報告書は無料。送料・手数料500円は、報告書に同封の払込用紙でお振込みください。





翼合唱団コンサートの様子



最初からうまく話せる当事者はいなく、何回も話していくことで、時間も長く、話もうまくなっていくのです。

最後に、私が「当事者の権利・自立・偏見」について話をし、終了しました。

第2部は、翼合唱団のコンサート(^^♪

翼合唱団は当事者、家族、世話人で作る合唱団です。ここでは、当事者が指揮、ドラム、ハーモニカをやり、登壇できなくても楽器などができる当事者がいること、人それぞれでできることがあることを伝えられたと思います。

合間には家族の手記の朗読があり、家族と当事者で作った今まで見たことがない記念講演になったと思います。

思いが実現!! 他県でもできます!!

本当に私がやりたかった講演でした。若生さんはじめ、世話人の方々は、何度も「絶対、当事者は話ができる」と言い続けた私の思いを受け止めて、一生懸命にやってくれました。

他の県に行くと「話ができる当事者はいない」と言われたり、「宮城県は丹野君がいるからいい

よね」と言われてきました。そうではないんだ、話ができる当事者はたくさんいる、私が特別ではないのだ、と証明するためにも、私は客席で、みなさんに登壇してもらいたい!と強く願っていました。それが実現できたのです。本当にうれしい瞬間でした。

宮城県だからできるのではなく、全国でもできると信じて、広まってほしいです。

「おれんじドア」から「家族の会」に〜そして、元気になった!

今回登壇した当事者の中の3人は、「おれんじドア」から「家族の会」につながり、今回、登壇するまでに元気になったのです。「おれんじドア」をやっている、どんな賞をもらうよりも、元気な当事者が増えてきてくれたことが最高にうれしかったです。

ここまで当事者の力を信じてがんばってくれた世話人の方々に感謝しています。

ここで終わりではなく、今回話をした当事者がさらに長く話ができるように、また新たな当事者が話をしてくれるように、一緒にやっていきたいと思います。

(宮城県支部 丹野智文)

情報コーナー

本人交流の場

(詳細は各支部まで)

宮城●1月18日(木)10:30~15:00/翼のつどい→泉区南光台市民センター
山形●1月20日(土)13:00~15:00/置賜のつどい・本人のつどい→すこやかセンター2階
埼玉●1月27日(土)11:00~14:30/若年

のつどい・川越→ウエスタ川越南公民館
千葉●1月28日(日)13:00~15:30/若年(本人)のつどい→千葉県社会福祉センター
神奈川●1月19日(金)11:00~15:00/若年性認知症よこはま北部のつどい→横浜市中山地域ケアプラザ
富山●1月17日(木)13:30~15:30/てるるぼうずの会→サンフォルテ
静岡●1月9日(火)10:00~13:00/若年性のつどい→富士市フィランセ西館

三重●1月28日(日)13:00~15:30/若年認知症のつどい→四日市総合会館
鳥取●1月13日(土)11:00~15:00/西部にっこの会→まちなかカフェわだや
広島●1月13日(土)11:00~15:30/陽溜まりの会広島→広島県健康福祉センター
愛媛●1月26日(金)13:00~15:00/若年性つどい→愛媛県看護研修センター

第33回全国研究集会in徳島 11月5日(日)開催・400名参加

熱が入り意気込みを感じる挨拶で開会 — 笑いも交え、暮らしやすい街について考える



シンポジウム出演者。(左から)大浦江美子氏(コーディネーター)、白山靖彦氏(助言者)とシンポジストの田中室長・大森隆史・村橋文彦・瀬川正昭・住友達也の各氏、花俣副代表、阿部豊子さん(認知症本人)

笑い笑顔は認知症に“いいね！”

今年の全国研究集会は、徳島県鳴門市文化会館で開催されました。“高齢者の笑顔の花咲く徳島”を目指している県だけあり、飯泉嘉門知事(代読：後藤田博副知事)、泉理彦鳴門市長のご挨拶も熱が入り、今年7月に現職となられた厚生労働省の田中規倫厚生労働省老健局総務課認知症施策推進室長からも意気込みを感じるお話をいただいたの開会となりました。

講演は「認知症と笑い 落語で認知症を予防する!」の演題で、笑福亭學光師匠による落語、歌遊び、腹話術、阿波踊りも交えた内容。“笑い”は予防、ケアの面で効果が指摘されていますが、難しい話は抜きにして、次々と披露されるお笑い福祉士としてのネ

笑福亭學光師匠



タは「笑いはこちらとからだに“いいね!”と感じさせる講演でした。

今年も全国から様々な取り組みを発表

事例発表は全国から4人の方が登壇。松本久和子さん(徳島県)は地元鳴門市で介護家族また民生委員としてオープンな関係の大切さを、鷲田良平さん(山形県)は母親の介護で反省が残った経験を家族目線でカフェに活かしている事例を、池田右文さん(青森県)は自分らしさをセルフデザインし認知症

の方が地域で活躍できる場を創る事業の意味を、大野教子さん(「家族の会」東京都支部代表)は支部会員へのアンケートから家族の悩みや思いを浮き出させた報告を紹介し、本人にも家族にも暮らしやすい街を目指す取り組みが報告されました。



松本久和子さん



鷲田良平さん



池田右文さん



大野教子東京都支部代表

高齢化・過疎化に挑み、暮らしやすい街に

シンポジウムは、県内の行政・医療・企業で活動している方々、厚労省の田中室長、「家族の会」の花俣ふみ代副代表理事、認知症ご本人から「徳島で考える、認知症の人も家族も暮らしやすい街とは」をテーマにした意見が発表されました。多くの発言で高齢化や過疎化が進むデータが指摘される中、現実を踏まえた活動を通し、慣れ親しんだ場所で暮らせる良さ、それを維持する工夫のやりとりがありました。最後に、ご本人から普段の生活が語られ、「苦労もあるが制度・サービスを利用して今のように暮らしていきたい」という前向きな気持ちが伝わってきました。高齢・過疎化が進むことは地域が密に強固になる可能性もあり、様々な職業・分野でアイデアを出し、結びつきを強めていく必要性を感じ、徳島の皆さんの熱い思いを感じた一日でした。(編集委員 芦野正憲)

新春企画

犬(戌)と共に、明るく楽しく

認知症の本人や家族が、犬の活躍によって元気づけられたエピソードを紹介します

ぼ〜れぼ〜れ 次号予告

・新年のあいさつ

鈴木森夫

・国際交流専門委員会による
新連載開始

会員さんからの お便り

このコーナーに寄せられたお便りの他、入会申込書、
「会員の声」はがき、支部会報から選び掲載しています。

お便りお待ちしております！

〒602-8143 京都市上京区猪熊通丸太町下ル
仲之町519番地 京都社会福祉会館内
〈「家族の会」編集委員会宛〉

FAX.075-811-8188

Eメール office@alzheim.or.jp

ぼ〜れぼ〜れ10月号
「つながりが必要」を読んで

認知症の人とは以心伝心

●徳島県 Aさん 女性

「小さなきっかけで認知症状がすすむことはよくあるよ」って聞いていても、なってみないと実感できないものですね。

でも認知症って不思議なもので、「介護の力」というか、そばにいる人の影響を一番受ける病気だと思っています。私が能天気冗談ばかり言って笑わせている時は、母も穏やかです。私がイライラしてつっけんどんな対応すると、母も不穏になります。「以心伝心って認知症対応の言葉だ」と、仲間とよく話したものです。

デイサービスに行っている時にHさんも顔をだし、どんなことをしているのか、その時ご主人はどうなのかご覧になるのもいいですよ。デイサービスで食べた食事の話や一緒に活動している職員や仲間など、共通の話題ができますから。

また、ご主人がデイに行って、留守の時間は自分の趣味の時間と割り切って楽しんでほしいと思います。ケアマネさんと不安など、どんどん話してみてください。話してくださらないとケアマネさんに伝わらないこと、たくさんあります。

大城勝史著“認知症の私は「記憶より記録」”を読んで

●福岡県 Bさん 80歳代 男性

ぼ〜れぼ〜れ10月号に紹介された本を早速読んだ。一番に、診断が詳しく記されているのに感心した。また、初期に何とか仕事を続けたいと奮闘する姿に胸を打たれた。

クラウドファンディングなる新語を覚えたとし、障がい者支援センターに若年認知症コーディネーターがおられることを知り、勉強になった。クラウドファンディングについて勉強したい。

尊厳をもって暮らせる社会を

●千葉県 Cさん 50歳代 女性

愛媛県に住む実家の父が認知症です。実家では母が父と二人暮らしています。私自身は千葉県で訪問看護師として働いており、仕事で出会う認知症のある方やご家族の苦悩は、父や私たち家族と同じです。姉も千葉県内で看護師をしており、交代で2〜3ヵ月ごとに実家に様子を見に行ったり、孫たちも都合のつく時に遊びに行ってくれます。

認知症があっても、その社会的生命が守られ、尊厳を持って暮らせる社会が当たり前になることを願っています。



介護教室で救われました

●奈良県 Dさん 60歳代 女性

90歳代の母は要介護3、アルツハイマー型認知症と診断され、5年になります。

昨秋、家族のための奈良認知症介護教室のスタートの日に救われました。半年間、学ぶこと、つながること、体験談を活かしていくこと、何より、私を一番に考えていい、まず幸せになることと教わり、ぶれない自分づくりが始まりました。ありがたい出会いでした。

今秋は、施設での骨折事故で悩んでいます。



頑張るしかない現状

●愛知県 Gさん 40歳代 女性

一人暮らしの叔母が数年前に認知症になり、今年は80歳代の母も意味性認知症の診断を受けてしまいました。この先の不安がさらに増えています。家族で支えていける域を超えてしまい、気が沈みがちです。頑張りすぎない介護なんて考えられません。頑張るしかないのです。

被害妄想が強くて…

●京都府 Eさん 60歳代 男性

80歳代の母は、2年半程前にレビー小体型認知症と診断されました。隣人に対する被害妄想が強く、最近特にきつくなり、隣人からのクレームが再三ある。幻聴などが常に続いているせいか、夜眠れない時は隣に対し、怒鳴ったり、壁を叩いたりしているらしい。物忘れも強くなり、物盗られ妄想も昨年末から目立つようになった。片付けたことを忘れ、なにかと隣人のせいにする。その都度、こちらに電話してきて、振り回されている毎日です。

漠然とした不安の中で

●神奈川県 Hさん 80歳代 男性

早いものです。会員になって20年。介護していた妻を看取って15年になります。この間、介護に対する社会情勢も著しく変化してきております。「家族の会」の発展を望むと共に、介護される年齢となった自分自身のことも案じています。漠然とした不安がよぎる昨今です。

家族の理解、協力ありがたい

●大分県 Fさん 60歳代 女性

90歳代の要介護4の母を、ショートステイとデイサービス利用で何とか在宅介護が継続できています。

同じことを何回も言いますが、自分忘れはなく、日常接している家族の認識もできます。自宅にいたがるので、現在の状態でいけるところまでいこうと思っています。家族の理解、協力ありがたいです。介護保険制度と「家族の会」など、仲間の力に支えられていると感じます。

温泉旅行で発覚

●東京都 Iさん 40歳代 女性

今年の4月、家族で温泉旅行に行った時、70歳代の母は通帳などを持参していました。これは…？と思い、何とか病院受診し、検査の結果、アルツハイマー型認知症の可能性が高いということで、現在治療中です。幻聴がひどかった時期もありますが、投薬と関わり方を変えたことで症状は落ち着いております。今後のことを考え、いろいろ勉強したいと思っています。

※お名前はイニシャルではありません。
年齢は「50歳代」等で表記しています。